

人づくりまちづくり

FM局で
人と人をつなぐ

FM Radio Station
Connects People



「machi-iro / まち色」マガジン代表 恵 大造さん

平成19年度、奄美市名瀬中心市街地の活性化を目的として「なぜまち"Come(カン)モレー"プロジェクト」が結成されました。これは、奄美市通商連合会と奄美市社交飲食業組合を中心に、奄美大島商工会議所、奄美市とも連携し、奄美の方言で「カンモレー(こちらにいらっしゃい)」という名称のとおり、各団体の活性化への取り組みをネットワークして、より多くのお客様にまちを訪れていただくという取り組みでした。その情報発信部会の活動として創刊されたのが、フリーペーパー「machi-iro / まち色」マガジンです。

雑誌作りは全くの未経験だった商店街・飲食街のメンバーでしたが、毎晩、仕事を終えてから集まり、ワイワイやりながら、年5回、冊子づくりに励んできました。おかげで多くの反響があり、その後も皆さんの応援を得て、NPO法人として活動を続けています。まち(商店街)が好きで、にぎわっていたかつてのまちの活気を取り戻したいと思っています。商店街のイベントや、交流プラザ「まちcafe」も経営して、活性化を図っています。まちに来れば何かある、まちに行ってみようと思ってもらえたらうれしいですね。

NPO法人『あまみエフエムディ! ウェイヴ』理事長 麓 憲吾さん

2007年に、奄美から気軽に発信できるコミュニティエフエム「ディ!」を開設しました。コンセプトは「島ンチュの、島ンチュによる、島ンチュのための島ラジオ」。島の言葉や奄美の歴史、民謡、島出身アーティストのポップス、細かな生活情報やイベント情報などを発信してきました。現在、スタッフ12名。企業・団体会員349社、一般会員約1,100人の方たちに支えられています。

2010年10月に奄美を襲った豪雨災害時、電話も携帯も通じなくなるという未曾有の非常事態が発生しましたが、地域の人々に少しでも安心と安全を届けたいと24時間態勢で、5日間、安否確認や道路情報などの災害情報を発信し続けました。リスナーからの情報提供も多くあり、あらためてラジオの必要性を感じました。笠利中継局が2010年5月にできたこともあり、奄美市を何とかカバーできましたが、山が多く試聴できない地域もあったため、これを機会にインターネット放送を開始。世界中で聴取できるようになったのは、よかったと思っています。

課題はいろいろありますが、今後は奄美群島のネットワーク化や、音楽イベントなどを通じて島の活性化に少しでも役に立ちたいと思っています。



商店街を
もっと元気に!

Revitalizing Downtown

団塊世代がつくる無償ボランティア

奄美のトラさん 花井 恒三さん

平成19年3月に奄美市役所退職後、役所生活の人脈を生かし、ボランティアで奄美に尽くそうと、「団塊世代がつくる無償ボランティア・奄美のトラさん」活動を始動させました。頼まれもしないのにおせっかいを焼き、相手の喜ぶ姿に自分も満足する映画「男はつらいよ」シリーズのフーテンの寅さんのような存在になろうと思ったんです。

活動内容は、本土や沖縄と地元の橋渡し。奄美に関心のある移住希望者や、研究者、投資家やアーティストなどの人々に、情報を提供したり、案内を買って出たり、人材のマッチングなどを行っています。これによって、奄美の人口が増えたり、産業のパイが増えたりするのが夢ですね。奄美はIUOターンやIT産業集積、健康医療福祉のセラピー系マンパワーなど様々なモデル島として、今後ももっと注目されるといつも提言しています。そのために、奄美のトラさんとして楽しみながら飛び回っています。

こうした活動により、「奄美のトラさんの家」の名称で、わが家が鹿児島まちの駅になり、内閣府「地域活性化伝道師」にもなりました。島には千人のトラさんと一万人のサクラがいますよ。奄美に関心があるかたは、お気軽にどうぞ、ご連絡ください。

Changing Island Limitations
to a Strong Appeal

島のハンディを
発信力に変えて!



ASAスポーツアカデミー理事長&
(株)アイズ・カンパニー代表 園田 明さん

母子家庭で育ち、小学高学年のとき、いじめに遭いました。その時始めたのがバスケット。中学高校とバスケットに熱中し、インターハイや国体も経験し、バスケットが人生を変えてくれました。この恩返しをしたいと思い、島の子ども達が島外に試合しに行くハンディを逆転させ、島外のチームを招聘して奄美で試合をすることを始めました。今年で10年になりますが、全国レベルのチームも含め、中高校合わせて30チームが来島しています。

また、NPO法人を立ち上げ、公の体育館施設の指定管理者にもなり、スポーツだけでなく、地域との交流事業をしています。バスケットショップも立ち上げ、ユニフォームブランド「VAY oreLA」(「By 俺ら」の意味)を創りあげました。世の中には、弱くてお金もないけどバスケットが好きという昔の僕たちのような仲間がいるはずなので、彼らを応援するブランドになろうと思ったんです。今までの交流で培った国内外の人材が根本にあり、生産ラインを独自に持つことができたため、価格は一般の半額以下にできました。現在、創立4年で日本では15,000チームが契約、年商5億円となり、今年はアメリカのロスで事務所を開く予定です。ただし、本拠地は奄美。ここからの発信が基本です。

寅さんの
おせっかいで
島を活性化!

Busy in Others' Affairs to
Rejuvenate the Island



商店街の土曜日



にぎわったS-1グランプリ



舟こぎ体験も人気



チャレンジド・ショップ「あしたば村」



蘇鉄の葉で玩具づくり



シマ博覧会での料理教室



餅つきで、スポーツ選手と交流



「島人の宝」会議風景



夜の飲食店街「ヤング祭り」